

中学校事例3

つながり支えあう命の重み - 生・老・病・死をとおして -

三木市立三木東中学校第1・3学年

1 テーマ

つながり支え合う命の重み - 生・老・病・死をとおして -

2 実践のねらい

誕生の喜びと感動から伝わる命のいとおしさ、死を見つめてわかるかけがえのない命、つながり、支え合う命の重みを通して、自他の命を尊重する態度を養う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は三木市のほぼ北東部に位置し、豊かな自然と古い歴史に囲まれた町である。全校生は283名、創立(平成元年4月)時は614名であったが、少子化に伴い生徒数は年々減少の傾向にある。学校周辺には三木市役所、三木市文化会館、三木市教育センター、県立三木山森林公園、県立三木東高校等があり、学究の拠点となる一方、自然探求にも恵まれているが、少子化、都市化、情報化等の社会の急激な変化は、子どもたちに様々な影響を与えている。中でも、連帯感の希薄化、子どもたちの遊びの形態の変化は、人間関係づくりの困難さをおかかわせるものである。また、日常生活の中では、出産や死等、命に関わる大切な場面に触れる機会が失われ、人の命の有限性やかけがえのなさを実感としてとらえにくく、命の重みに対する感受性が乏しくなっている。以前は起こり得なかったような事件が毎日のように報道され、本校においても「命の大切さ」を実感として受け止められない態度を示す生徒が目につくようになってきている。「誰もの命が地球よりも重い」命の重みを実感としてとらえさせるべくテーマを設定した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

・「命って何だろう?」「命ってどこにあるの?」命の誕生から育まれてきた命、自己を見つめ自分を好きになるために自尊感情を育む体験を通して、つながり、支え合う命の重みを実感させる。

【感性を育む】

・「大人になるって何なの?」育まれた命の大切さを自分が生まれる前の父母の物語をたどることで、「生と死」の意味を実感させる。

【想像力の育成】

・「命を学んだあの時の体験・授業が私を変容させた」と子どもたちに「生きる」ことの意味を考えさせる。

・老病死の現実にふれることにより、「命の声に耳をすます」とはどんなことかを考えさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・子どもの家庭環境や友だち関係等を把握する。
- ・STAIテスト(状態・特性不安テスト)及び交流分析「エゴグラム」による生徒の個々の状況を把握する。
- ・家庭や地域社会に学習の趣旨を伝え、様々な取組への協力を依頼する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・理科
- ・音楽
- ・美術

- ・保健体育
- ・技術・家庭
- ・外国語
- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・情報機器活用の技術を習得する。(技術・家庭科、総合的な学習の時間等を利用したホームページの利用と作成)
- ・地域の防犯マップ(地域の駆け込み110番等)を確認する。
- ・「自分史新聞づくり」のための情報・資料を集めておく。
- ・トライやる・ウィークでの体験についてまとめておく。(第3学年)

(4) 家庭・地域との連携

- ・学習に対する理解と協力を得る(オープンスクール参加への声掛け、毎月の交通指導等)
- ・地域の警察、補導員、民生委員との定期的な情報交換を行い連携を図る。
- ・保護者を対象とした命の学習についての講演会を実施する。
- ・一回限りの取組で終わらないように、デイサービスセンター等で継続的な体験活動を行う。

5 本校の実践の特色(学習・体験の内容)

本校では様々な学習を命の大切さと直結させた取組を念頭に置き、また「ふるさとの良さを発見」をサブテーマに以下の取組を進めている。

毎月3回の定期的な早朝交通安全指導

自尊感情の育成をめざした生徒会主催の挨拶運動の継続的な実践

生徒指導部と教育相談部の連携による定期的なカウンセリングウィークの実施(今年度はエゴグラムを活用した全校生徒対象のカウンセリングウィーク)

救命救急法の実施(1年生対象)と防災学習により自他の命を守る体験学習及び一斉道徳学習の実施

食育をテーマにした校内での農園活動を通し、土を育て作物を栽培するまでの体験学習。

人権尊重の大切さを訴える人権弁論大会及び親子人権講演会の実施

健康教育の立場から3年生対象の性教育の実施

地域に開かれた学校づくり及び小中高連携のオープンスクール実施

教育講演会の実施(今年度はコウノトリの再生から人と自然の共生について)

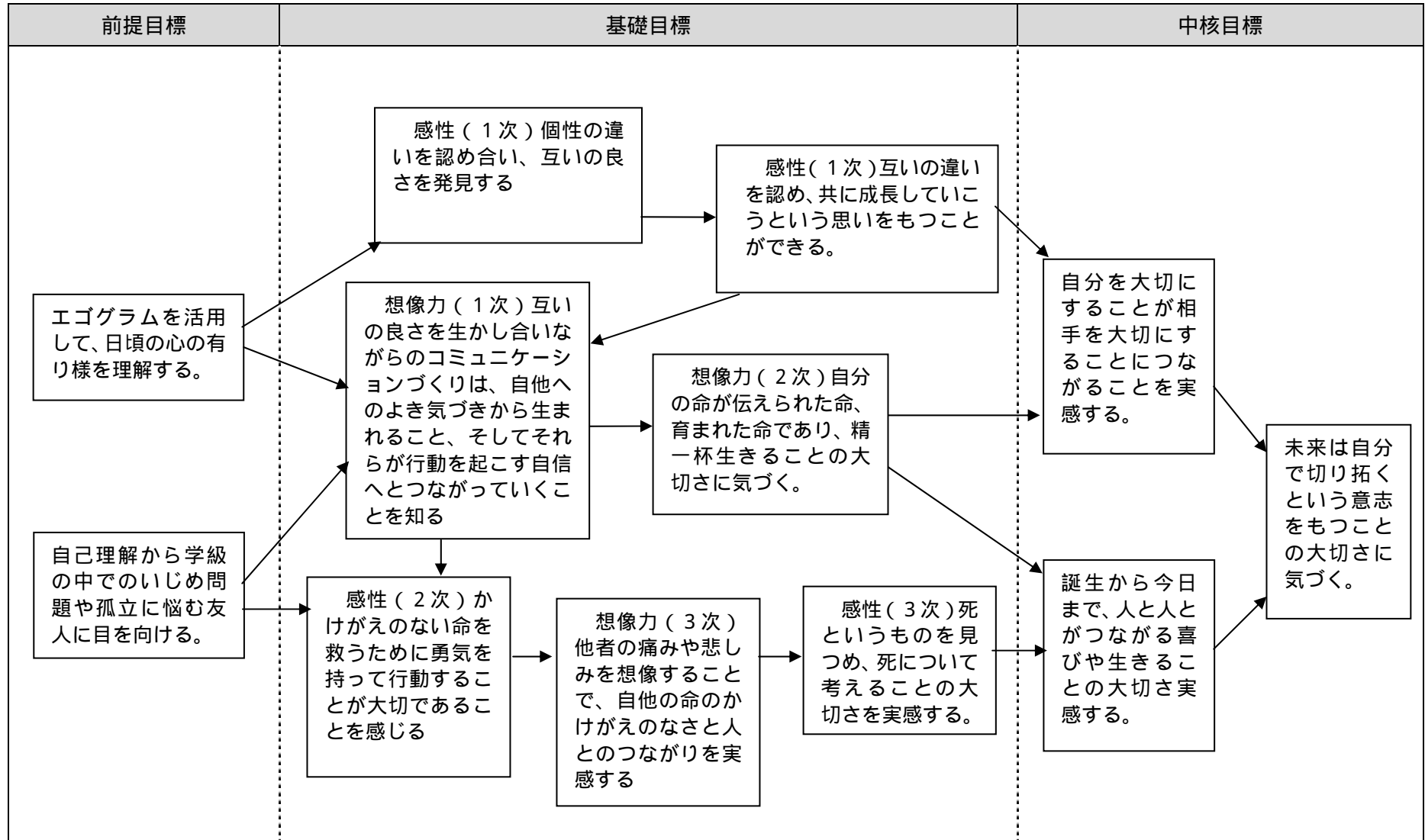
環境教育を充実させるために、また、絶滅を危惧される蝶の復活のために地域のいきいき応援団、ふるさとの先輩方を講師として、ギフチョウ復活を助けるヒメカンアオイの植栽

日本赤十字社との連携による継続的な年末の募金活動(車椅子の贈呈)

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	生活日誌を2日間記入する。	日々の生活リズムを再認識する。	一日の生活スタイルのバランスの大切さに目を向ける。	「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が、学校生活と深く関わることにについて考える。	
1次 (4時間)	生活サイクルを発表し合う。 自尊心を高める体験をする。 ・アサーション・トレーニングを体験する。 ・ストレスマネジメントを体験して自己の感情をコントロールする方法を知る。	自分の性格の特徴や行動パターンについて学ぶ。 エゴグラムを活用して、日頃の心の有り様を理解する。 様々なストレスを乗り越える方法を知り、感情が自分でコントロールできることを知る。	自己理解から学級の中でのいじめ問題や孤立に悩む友人に目を向ける。 個性の違いを認め合い、互いの良さを発見する。 怒りや悲しみなどの感情がリラクゼーション、呼吸法によって和らげられることに気づく。	アサーション・トレーニングにより「ことばを大切にできる子は、いのちを大切にできる子」であることに気づく。 互いの良さを生かし合いながらのコミュニケーションづくりは、自他へのよき気づきから生まれること、そしてそれらが行動を起こす自信へとつながっていくことを知る。	自己理解の大切さと言葉の大切さについて考えさせることができたか。 様々な不安や緊張の中、自己コントロールする大切さに気づいたか。
2次 (3時間)	救命救急法を学ぶ。 日本助産師会の助産師による命の授業を聞く。	実際に体験することにより、自分の行動が他者の命を救うことができることを理解する。 助産師から直接、人の誕生や、出産の大変さについて話を聞き、誕生の神秘性を感じ取る。	かけがえのない命を救うために勇気を持って行動することが大切であることを感じる。 赤ちゃんの誕生が「5億分の1の奇跡」であることに気づく。	自分が助ける場面と自分が助けられる場面を想像し、救急法を身につけておくことが大切であることを理解する。 自分の命が伝えられた命、育まれた命であり、精一杯生きることの大切さに気づく。	自分が勇気を持って行動することで命を救うことのできることを実感させることができたか。 自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。 誕生が神秘的なものであり、自他の命の大切さに気づくことができたか。
3次 (4時間)	「死」とおして、命についての考えを深める。 ・伝えたい命 ・精一杯生きた命 ・心の中に生きている命	池田貴族さんの家族に伝えたいメッセージから彼の無念さ、残された家族への深い愛情を感じ取らせる。 遺書を遺し自らの命を絶った男子生徒の手記より、その悲痛さと無念さを、そして「二度と帰ることのない命」の尊さにふれる。	死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感する。 「泣いていた、淋しそうにしていたり、喧嘩をしていたり」などの小さなことから芽をつみ取る大切さを考える。	他者の痛みや悲しみを想像することで、自他の命のかけがえのなさや人とのつながりを実感する。 いじめ解消に向けて「傍観者」の役割はいじめに加担していること、そして陰湿で執拗ないじめを繰り返される子どものつらさは「死と直面」しているという事実を考える。	死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させることができたか。 苦しい状況の中でも、強く生きようとする尊さを感じ取らせることができたか。
4次 (5時間)	自分史新聞を作る。	自分史新聞を作ることにより、受け継がれた命の大切さを感じる。 誕生から今日まで、人と人とのつながる喜びや生きることの大切さを実感する。	未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づく。 自分を大切にすることが相手を手を大切にすることにつながることを実感する。	今の自分を肯定するために、今何をすべきか考えることができる。 過去の自分と未来の自分に向き合うことで、かけがえのない自己の存在と夢をかなえるためにどうしたらよいかを考える。	未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせることができたか。 誕生から今日まで、人と人とのつながる喜びや命のもつつながりの深さを実感させることができたか。

7 目標構造図



(凡例) 感性(1次):「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	生活日誌 ・ 基本的生活習慣(早寝、早起き、朝ご飯の習慣)の大切さを教員自身が体験する。
b	自尊感情を高める体験 ・ 自己理解(エゴグラム活用とアサーション・トレーニング)、他者理解(インタビュー)をとおして、自尊感情を高める体験をする。 ・ 怒り、ストレスをコントロールするストレスマネジメント体験をする。
c	AEDを用いた救命救急法の体験
d	日本助産師会の助産師による命の授業 ・ 出産の疑似体験、おなかの中の赤ちゃんの心音を聴く体験をする。 ・ 生徒の自分史ノートづくりための取組(家族へのインタビュー、命のつながりと誕生の神秘性等)の指導について検討する。

(2) 指導の概要(全16時間)

内 容		
事前	生活日誌を2日間記入する。	教員研修 a
1次 (4時間)	1 生活サイクルを発表し合う。 ・ 睡眠時間、体内時計、食卓でのコミュニケーションづくり等が学校生活と深くかかわることを知る。(2時間)	教員研修 b
	2 自尊感情を高める体験をする。 ・ 「ことばを大切にできる人は、いのちを大切にできる」との考えのもと、エゴグラム活用とアサーション・トレーニングを体験する。 ・ ストレスマネジメントを体験して自己の感情をコントロールする方法を知る。(2時間)	
2次 (3時間)	1 救命救急法を学ぶ。 ・ 君は心臓の鼓動を聴いたことあるかい? 鼓動を聴くことで命の重みを想像する。(2時間)	教員研修 c
	2 日本助産師会の助産師による命の授業を聞く。 ・ 出産の疑似体験、おなかの中の赤ちゃんの心音を聴く体験をする。(1時間)	教員研修 d
3次 (4時間)	「死」とおして、命についての考えを深める。 1 伝えたい命...ガンに冒されたロックミュージシャン池田貴族さんのビデオから命の尊厳を知る。(1時間) 2 精一杯生きた命...2006(平成18年)10月、福岡中2男子の遺書「生まれ変わったら最強に」から、男子生徒が遺したものは何かを考える。(1時間) 3 かけがえのない人との別れを体験した教師の話聞き、「心の中に生きている」とはどういうことか考える。(1時間) 4 愛する人やかけがえのない人との別れを迎える人を励まし支える音楽を聴く。『さようなら ありがとう』(歌 夏川りみ ビクターエンターテイメント 2006) (1時間)	

4 次 (5 時 間)	<p>自分史新聞を作る。</p> <p>1 誕生が「5億分の1の奇跡なり！」そして280日間の長旅から「すごい力であなたが生まれてきた」ことを知る。(1時間)</p> <p>2 過去の自分に手紙を書き、「置き去りにしてきた何か」を感じ取る。(1時間)</p> <p>3 未来の自分に手紙を書き、世間の思いや価値観に固執せず、自分らしさを求めることの大切さに気づく。(2時間)</p> <p>4 誕生から今日まで「自分の番」(相田みつを)の詩を音読し、命のもつ「つながりの深さと生きることの素晴らしさ」を実感する。(1時間)</p>
事後	<p>振り返りカードに記入する。</p>

9 指導実践

(1) 1次第3時

ア 本時のねらい

自己理解を深め、やさしい自己主張(アサーショントレーニング)を学ぶことをとおして、自尊感情を高める。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の性格の特徴や行動パターンを学ばせる。

(イ) 感性を育む

個性の違いを認め合い、互いの良さを発見させる。

(ウ) 想像力の育成

互いの良さを生かし合いながらのコミュニケーションづくりは、自他へのよき気づきから生まれること、そしてそれらが行動を起こす自信へとつながっていくことを知らせる。

ウ 準備物

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 自己理解のためのエゴグラム記録用紙とエゴグラムについての資料プリントを準備する。

(兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』P19~22参照)

(イ) 本音のことは上手に伝えることができるアサーティブな言い方を学ぶためのトレーニング用紙を準備する。(兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』P31~45参照)

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 呼吸法(腹式呼吸・10秒呼吸法)を体験する。	・ストレスを和らげるために呼吸法が役に立つことを知らせる。
展 開	2 エゴグラムチェックリストに回答する。	・自己理解の大切さを知らせる。 ・エクササイズに楽しく参加できるように肯定的な言葉を用意する。
	3 自己表現の特徴に気づく。 ・各項目の合計点を鉛筆で記入し、折れ線グラフを作成する。 ・一番高い所、一番低い所に赤い丸印でチェックする。	・エゴグラムの結果の見方を説明することで、グラフの理解を助ける。 ・各自の結果からコミュニケーションを円滑にするアサーティブな表現について考えさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どんな話し方があるのか考えよう。 </div>		

まとめ	4 多様な表現の特徴を知る。 ・受け身的な態度表現、攻撃的な態度表現、冷たい合理的な態度表現 等	・自分らしい言葉とは何かを考えさせる。 ・人間関係を円滑にさせるために必要なことは何かを考えさせる。
	5 日常生活の中で「つい腹が立って言い過ぎたこと」「言おうとしたが、我慢して悔しい思いをしたこと」「ドキドキして言いそびれたこと」を思い出す。	・自分の気持ちに気づかせる。
	6 自分の感情を落ち着かせる方法を探す。	・感情を落ち着かせると、違った表現ができることに気づかせる。
	7 ロールプレイングでアサーティブな言い方(自他を大切にしたい自己表現)を体験する。	・その時の感情を知り、適切な表現方法に気づかせる。
	8 ロールプレイングを振り返り、感じたことを話し合う。	・聞き手、話し手の受け止め方、感じ方を話し合う。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) エゴグラムは小学校でも実施した生徒がおり、楽しく実践していた。
- (イ) アサーティブな表現の仕方の学習では、やさしい自己主張を学ぶことで自身のストレスを低下できると実感した生徒が見られた。
- (ウ) 怒りは人間本来持っている大切な感情であるために、正直な表現と怒りとの関係は継続的な課題である。言葉の持つ暴力性はいじめの根っこであり、命をも脅かす存在であることをさらに深く追求したい。
- (エ) 今回はこの一考察をもとにカウンセリングウィークへとつなぐ試みとなった。ストレスを抱え、自己効力感が持てない子どもたちが増える中、家庭においても、学校においても「自分を話そう」と日常的な自分を語る場面を設定していくことは大切である。
「こころづかいはことばづかいかから」言葉で心を結ぶことで希薄な人間関係が深まるような実践を続けたい。

キ 振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名前()		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	ストレスを乗り越える方法を知り、感情が自分でコントロールできることを実感できたか。	
感性を育む	自分を大切にすることが、相手を尊重する態度へとつながることを実感しよう。	

想像力の育成	<p>かけがえのない自他の存在にこれからの自分自身の果たすべき役割について考えよう。</p>	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 3次第1時

ア 本時のねらい

ガンに冒されたロックミュージシャン池田貴族さんの家族に伝えたい思いを考えることをとおして、命の尊厳を感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

池田貴族さんの家族に伝えたいメッセージから彼の無念さ、残された家族への深い愛情を感じ取らせる。

(イ) 感性を育む

死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

他者の痛みや悲しみを想像することで、自他の命のかけがえのなさ与人とのつながりを実感させる。

ウ 準備物 開隆堂出版 ビデオ『ふれあいを大切にビデオシリーズ ガンに侵されたロックミュージシャン』、ワークシート

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 使用するビデオについての研修

・1996年、ミュージシャン・タレントとして活躍する池田貴族さんはガンの宣告を受け、ほどなくして妻の一美さんの妊娠がわかり、一美さんは出産を決意する。そして、娘の美夕ちゃんが誕生。美夕ちゃんが1歳になった頃、池田さんは余命半年の宣告を受けることに……。池田貴族さん、一美さん、美夕ちゃんの姿を通じて「家族について」「いのちについて」考える。

(イ) 教員自身が、死というものを見つめ、死についての考えをまとめておく。

(ウ) 現在配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 「伝えたい命とは何か」を考える。	・人間の持つ生命力と家族への愛について考えさせる。
展 開	2 ビデオを鑑賞する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">精一杯生きるとはどういうことかを、今までの自分たちの生き方と重ね合わせて考えよう。</div>	
	3 ビデオについての感想を出し合う。 ・この学習を通して、命の大切さ、家族の思い、自分の夢の大切さがわかった。いつも普通に過ごせたり、遊んだり、元気なのは当たり前じゃないこともわかった。池田さんはロックミュージシャンで自分の夢があるし、家族を置いて死にたくないという気持ちが強かったから、できるところまでやれたのかなと思う。もし、池田さんがロックミュージシャンじゃなく、美夕ちゃんもいなかったら、すぐに死んでしまっていたかもしれないと思った。これからは一日一日を悔いのないように生きようと思う。	・死別の悲しみに思いをめぐらすことによって、自他の命を大切にしようとする気持ちに気づかせる。

展 開	<p>・池田さんの美夕ちゃんが3歳になるまで生きるという目標は達成できなかったけど、ガンと闘っていたことはとても素晴らしいことだと思いました。池田さんが生きていられたのは一美さんや美夕ちゃん、メンバーの人々やファンの人たちがいたから支えてくれたからだと思います。今、一美さんや美夕ちゃんはどのようにしているのか、池田さんが亡くなったあと、メンバーの人たちはどのようにしているのかなと思います。亡くなった池田さんは立派に生きていたと思います。入退院を繰り返しながらも大好きな歌を歌うことを絶対にあきらめてはいませんでした。「美夕」という歌を作詞して歌っている池田さんはとても輝いていました。</p>	<p>・死に対する過度の恐怖心を抱かせていないか、生徒一人ひとりの心の動きを十分に捉える。</p>
ま と め	<p>4 ワークシートに感想をまとめる。</p>	<p>・本時のねらいである、苦しい中でも、強く生きようとする事の尊さを感じ取らせる。</p>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

(ア) ほとんどの生徒が真剣にビデオ鑑賞をし、ワークシートにもしっかり記入できた。

(イ) 家族の絆の深さ、人と人とのつながり合いの大切さを実感していた。

(ウ) 子どもたちにとっては、「死」というものが大変漠然としており、捉えどころのないものであり、「余命を宣告される」ことや「死に至る病に冒される」ということを実感としてとらえることはなかなか難しいが、この学習を通して、口先だけで「命は大切」なんて言うのではなく「命の重さ」ということはしっかりと感じ取ったようである。その延長で「『今』を大切に生きる」ことの大切さを実感した生徒が多く、感想にも書いていた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学 習 ・ 体 験 の 目 標 (め あ て)	自 分 の 振 り 返 り
感 動 の 体 験	彼の家族への深い愛情を感じ取ろう。	
感 性 を 育 む	死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感できたか。	
想 像 力 の 育 成	残された妻と幼い子どもが、彼の遺志を受け継いで、逞しく生きていく強さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第2時

ア 本時のねらい

「いじめられてもう生きていけない」という言葉を遺し自らの命を絶った福岡中2男子生徒の遺書を読むことをとおして、命を奪う「いじめ」の実態及び、いじめの解消に向けて何が大切で何が必要であるかを理解し、払拭に向けた積極的な態度を養う。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・遺書を遺し自らの命を絶った男子生徒の手記より、その悲痛さと無念さを、そして「二度と帰ることのない命」の尊さにふれさせる。
- ・いじめを見て見ぬふりをすることは加害者になることを知らせる。

(イ) 感性を育む

- ・「泣いていたたり、淋しそうにしていたり、喧嘩をしていたり」などの小さなことから芽をつみ取る大切さを考えさせる。
- ・いじめの残酷さ、酷さから自分にとって一番大切なものを亡くしてしまった家族の心情と心の叫び、絶望感にふれさせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめ解消に向けて「傍観者」の役割はいじめに加担していること、そして陰湿で執拗ないじめを繰り返される子どものつらさは「死と直面」しているという事実を考えさせる。
- ・「いじめはいけない」「いじめに負けない」というメッセージについて考えさせる。

ウ 準備物

- ・「生まれ変わったらディープインパクトの子どもで最強に」そんな思いを残して自らの命を絶った福岡筑前町中2男子の遺書全文。(読売新聞 2006年10月12日掲載)
- ・NHKソフトウェア『いじめ第1巻 ドキュメント・1000の叫び』
- ・実態調査用紙「いじめられ体験アンケート」

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 中2男子の遺書全文を活用しての指導案の検討

- ・男子生徒の心情をどのように読み取らせるかについて検討する。

(イ) ビデオ『いじめ第1巻 ドキュメント・1000の叫び』についての研修

- ・いじめを苦にして自殺した(1994)男子生徒の父親のビデオメッセージから、生徒に向けて最も伝えなければならないことについて検討する。

(ウ) 「いじめられ体験アンケート」の質問項目の検討

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 アンケート「いじめられ体験」に記入する。	・心を落ち着かせ、いじめに対する問題意識を持たせる。

展 開	<p>2 資料(新聞記事)を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料(新聞記事)の抜粋 【学校が配布した家庭への連絡プリントの裏】 お母さんお父さんこんなだめ息子でごめん 今までありがとう。いじめられて、もう生きていけない。 【画用紙】 See you again?人生のフィナーレがきました さようなら さようなら さよ~なら~ 生まれかわったらディープインパクトの子供で最強になりたいと思います。 【スケッチブック】 遺言 お金はすべて学校に寄付します。うざい奴等はとりつきます。さよなら いじめが原因です。いたって本気です。さようなら 【理科のノート】 遺言 さようなら 僕が死んだら僕の貯金は学校にあげます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・黙読させる。
	<p>3 将来調教師になりたいという夢をも、絶たざるを得なかった男子生徒の心情に思いをはせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「誰にも相談できない苦しさ」「家族に心配かけたくない気持ち」「暴力を受けた時の恐怖感」「お金を取られる悔しさ」等、気づいたこと感じたことを話し合おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのもつ酷さ、残酷さから死を選んだ男子生徒の心情や遺された家族の悲しみについて考えさせる。
ま と め	<p>4 いじめを苦しんで自殺した男子生徒の父親のビデオレターを視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちには守ってくれる人、必要としている人が必ずいることを知らせる。 ・息子が先に逝った親の無念さから、一生つきまとう悲しみの深さを理解させる。 ・いじめられる側の立場の深刻さに気づくことで、他者の気持ちを考えることの大切さに触れさせる。
	<p>5 授業を振り返って、自分の思いや考えを発表し、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の体験も思い出させ、いじめは誰にでも起こりうる身近な問題として捉えさせる。 ・資料「決心」(道徳副読本「ともだち」より)を配布し、次時の課題であることを知らせる。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

(ア) 今の世の中、子どもは生きにくいのかもしれない。いじめは絶対に根絶できないという大方の子どもたちの意見は、いじめる側にいて安全圏にいると「自分は大丈夫」という安心から生まれるのかもしれない。しかし、遺書を前に、子どもたちは真剣にいじめについて考え、かけがえのない命の重要性について討議することができた。

(イ) いじめには常に多くの傍観者がいる。傍観者はなぜ悪いのか。自分には関係ないという子どもたちを前に、「いじめてはいけない」と教えたからといっていじめはなくなるものではないことを痛感した。いじめを解決する過程を大切に、その中で人間の尊厳や命の大切さを家庭と連携を取り合いながら、早い段階で芽をつみ取ることが求められている。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	かけがえのない命は、なくすと二度と帰ってこないことが理解できたか。	
感性を育む	なぜいじめは起きるのか、いじめはなくなるのか考え、いじめをなくすためにできることを考えよう。	
想像力の育成	いじめにおける傍観者はどんな役割を果たしているのか考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

自分史新聞づくりをとおして、自己を様々な観点から見直し未来への展望を開く。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分史新聞をつくることにより、受け継がれたこの命の大切さを感じさせる。

(イ) 感性を育む

未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

今の自分を肯定するために、今何をなすべきかを考えさせる。

ウ 準備物 自分史新聞の例4～5点

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 教員自身の自尊感情を高める研修

(イ) 家庭や地域と連携し、子ども家庭環境や心身の状態等を把握し、事前事後の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 事前に調べておいた自分の誕生日の出来事を確認する。 ・印象に残った記事をメモする。	・生まれた時の社会情勢に目を向けさせる。
展 開	2 相田みつをの詩「自分の番・いのちのバトン」を音読する。	・誕生までの280日間という長旅を経て、すごい力で生まれてきたことを伝える。
	3 自分史新聞の内容を過去・未来の観点から記入する。 ・過去の自分への手紙 ・未来の自分への手紙	・生まれてから15歳までの間の 「してもらったこと」 「うれしかったこと」 を思い出させる。
	4 今の自分を見つめ直す。 ・自分の好きなところ、自慢できること、将来の夢等を挙げる。	・適切な自己表現をすることによって、自己存在感を感受できる体験となることを伝える。
	5 将来どのように道を切り拓いていくか、「私の人生設計」に記入する。	・気持ちを率直に出せる雰囲気づくりを心がける。 ・今懸命に取り組んでいること、こんなことを学びたい、こんな高校生活を送りたい等、将来について考えさせる。

まとめ	<p>6 ペアになり、お互いに自分の夢について話し合い、交流を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この新聞作りで自分のいろいろなことが両手で数えられないくらい発見できた。予定日の4日前に難産で生まれたこととか、名前の由来(素直で美しい子)には感動した。最初は書くことが決まらなかったけど無事完成してよかった。 ・今までいろんなことがいっぱいあったなあと思った。毎日が楽しかった。まだ将来の夢とかはわからないけど、一日一日を大切にしたい。そして、やりたいことにはしっかりと取り組みたい。 ・『過去を記すことは未来への出発点、夢(目標)のある人に未来はほほえむ』のキャッチフレーズではじめた自分史ノートづくりでは、「受験で忙しい中、なんで?」と思ったが、将来の夢(弁護士)が明確になってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせる。
-----	---	--

カ 先生の振り返り

自ら情報を発信し、お互いに評価し合うことをとおして、相互に理解を深めることができ、自分史新聞づくりは有意義であった。幼い頃の様子について、家庭からメッセージをいただいたが、それは大人と子どもがつながりを感じ取れるよい機会となったように思う。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	自分史をつくることにより、受け継がれたこの命の大切さを感じられたか。	
感性を育む	今の自分肯定するために、今なにをすべきかを理解できたか。	
想像力の育成	未来への希望と願いを持たせることができたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

過去から現在までの振り返りは、生きている喜び、周囲への感謝を実感させることができた。保護者からのメッセージでは、自身の命の誕生にかかわる話を聞くことができる機会となり、その後の出産・育児の過程とともに、生徒が自身の生を見つめ直すきっかけとなったように思う。家庭での会話も増えて、親子関係がスムーズになったとの意見も聞かれた。

(2) 今後の課題

学校でのいじめや、いじめを苦しめた子どもたちの自殺が相次いでいる。なぜ、いじめが起きるのか、どうすれば解決できるのか、どう子どもたちの命を守るのか、子どもたちの命のハードルの低さを何とかするために教師自身が「子どもと一緒に闘う」という当たり前のことが求められているのではないだろうか。

子どもたちに死について教えるのは難しいかもしれない。しかし答が出せなくても一緒に考えることが必要ではないだろうか。現代社会の命の軽薄さとともに命の有限性(死が必ず訪れること)を理解させることで、限りある命を充実させたいと願ってくれたらこの学習は意義あるものになるであろう。

夢を語り、目を輝かせて何かに没頭する生徒が少なくなってきたと感じる現在、夢や志を育み、何かを学びたいという動機を高めるためにも、自分史新聞づくりはその環境づくりの一つとなったように考えている。家庭での会話が増え、子どもの視野が広がることになると確信した。

しかし、昨今家庭で夕食を共にする機会は減り、家事を分担している子どもも非常に少ない現実がある。乏しくなっているコミュニケーションが「命の大切さの実感しにくさ」ともつながっていると考えられる。命の大切さを実感させるために、学校がいかに夢と志を育む環境づくりを進められるかが求められていると言えよう。

11 参考・引用文献

- ・相田みつを『いのちのバトン - 初めて出会う相田みつをのことば』角川書店 2005
- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成 10 年度心の教育授業実践研究 第 1 号』1999
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成 12・13 年度心の教育授業実践研究 第 3 号』2002
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成 14 年度心の教育授業実践研究 第 5 号 中学校編』2003
- ・兵庫教育大学附属中学校 研究紀要 2006